

平成28年度(第13回)原子力規格委員会 功労賞 受賞者の方々

[順不同 敬称略]

No.	候補者名 (ふりがな)	勤務先	活動の実績
1	寺井 隆幸 (てらい たかゆき)	東京大学	平成19年8月から平成29年2月まで9年半に亘り原子燃料分科会の分科会長を務め、規格の制・改定で顕著な成果を収めるとともに、原子力規格委員会において規格全般の審議および分科会との橋渡しに大いに貢献された。 在任中に、JEAC4211-2013「取替炉心の安全性評価規程」、JEAC4212-2013「原子力発電所における炉心・燃料に係る検査規程」他を策定し発行するとともに、原子燃料の品質管理に係るJEAG4204を改定された。この間、議論收拾の方向づけにリーダーシップを発揮するとともに、関係者間のコミュニケーションが円滑に行われるよう心を砕かれた。
2	吉村 忍 (よしむら しのぶ)	東京大学	平成14年8月から構造分科会委員、20年9月から分科会長を務め、JEAC4201「原子炉構造材の監視試験方法」をはじめとする原子力発電所の構造・検査技術関係の規程および指針の制・改定に大いに貢献された。 福島事故後の平成24年9月、耐震設計分科会に津波検討会を、翌25年7月、構造分科会に水密化技術検討会を立ち上げ、JEAC4629-2014「原子力発電所耐震設計技術規程」およびJEAG4630-2016「浸水防止設備技術指針」の制定に精力的に取り組まれた。また、状態監視保全に資する各種設備診断に関して、運転・保守分科会関係者に技術指針を指導する一方、表彰審議会委員を長年に亘り務めるなど、幅広くご活躍された。
3	行徳 俊夫 (ぎょうとく としお)	日立GEニュークリア・エナジー株式会社	平成20年より耐震設計分科会 機器・配管系検討会の委員、平成22年より副幹事として、8年以上に亘り主査や幹事を理論と実務の両面で補佐し、検討会の運営に大いに貢献された。 JEAG4601-2015[2016年追補版]「原子力発電所耐震設計技術指針 重大事故等対処施設編(基本方針)」では、設計実務での長年の経験を基に発言し議論を進展させるとともに、建物・構築物検討会および安全設計分科会関係者とも意見交換を行い、成案に導かれた。また、JEAC4601-2015「原子力発電所耐震設計技術規程」の発刊にも大いに貢献された。
4	秋吉 幹人 (あきよし みきと)	関西電力株式会社	平成24年9月に品質保証検討会の作業会メンバーに加わり、翌25年9月以降は副主査として、原子力安全のためのマネジメントシステム規程および指針の改定、また普及・促進において、電気事業者の品質保証部門での豊富な知見を活かし、大いに貢献された。 JEAC4111 コースⅡ・Ⅲ講習会においては、継続してテキストの見直しに参加するとともに、論理的で分かりやすい説明と質問への丁寧な受け答えにより、受講者からの評価を高められた。
5	鈴木 直浩 (すずき なおひろ)	中部電力株式会社	平成27年6月に保守管理検討会の主査となり、広範な分野を網羅する「JEAC4209原子力発電所の保守管理規程」および「JEAG4210原子力発電所の保守管理指針」の改定作業および全体の取り纏めにご活躍し、多大な貢献をされた。 ①シビアアクシデントへの対応、②保全活動におけるリスクへの対応、③海外情報の肝要箇所の規程・指針への適切な反映についてリーダーシップを発揮し、規格の発刊に功績を収められた。
6	廣田 貴俊 (ひろた たかとし)	三菱重工業株式会社	平成24年5月に構造分科会 破壊靱性検討会にオブザーバとして参加して後、常時参加者、委員、平成27年7月以降は副主査として、原子炉構造材の照射脆化に係る規格の改定に大いに貢献された。 メーカー技術者としての知見を活かし、分科会および原子力規格委員会での説明・質疑で中心的な役割を果たし、JEAC4201-2007「原子炉構造材の監視試験方法[2013年追補版]」の技術評価では、原子力規制庁の会議体の専門家委員に的確に対応するなど活躍された。

以上